

ちょうどいい距離

平成 30 年 5 月
立川女子高等学校
カウンセラーだより裏面

むかしむかし、あるところで、2匹のハリネズミが出会いました。
2匹は一目でお互いを気に入り、すぐにお友達になりました。

その日はとても寒い日だったので、2匹のハリネズミは、近づいてお互いの体温で温まろうとしました。しかし、近づくと、相手の体に生えているトゲがささって、痛くてしかたありません。そこで、あわてて離れてみましたが、それだと寒くて、耐えられそうにありません。

2匹のハリネズミは、近づいては相手のトゲで痛い思いをし、離れては寒さに凍えるということを繰り返していましたが、お互いに協力し合って、ついに、痛みを我慢出来、お互いのぬくもりで温まれる距離を探し当てました。

こうして、2匹のハリネズミは、いつまでも仲良く暮らしました。



これは、ドイツのシュウベンハウエルという哲学者が作った「ハリネズミのジレンマ」という寓話です。

ハリネズミ君たちは、「傷つきたくない」という気持ちと「相手のぬくもりを感じたい」という両立しない2つの気持ちのために板ばさみになりました。このように板ばさみになって悩むことを「ジレンマ」といいます。

私たち人間も、誰かと親しくなると、時には甘えたり遠慮がなくなったりして、相手を傷つけたり、逆に傷つけられたりすることがあります。でも、傷つのが怖いからと、誰とも親しい関係にならなければ、とてもさびしい気持ちになってしまいます。

痛みが気にならず、しかも相手のぬくもりを感じる心の距離は、人によっても状況によっても違います。相手とのちょうどいい距離を見つけるのは、とても大変なことだと思いますが、お互いが相手を思いやって、協力し合えば、ちょうどいい距離が見つかると思います。

ちょうどいい距離を見つけることが出来れば、いつまでも仲良くいられることを、このお話は私たちに教えてくれているのだと思います。

